独占ロングインタビュー

前編 引退と未来

Retirement and the future

2015年5月27日――全英選手権の会場、ウィンター・ガーデンのエンプレス・ボールルームは総立ちになりました。プロ・ラテンアメリカン選手権を踊り終えたマイケル・マリトースキー&ジョアンナ・ルーニス組が、現役引退表明をしたのです。しかも二人は、ブライアン・ワトソン&カルメンの7連覇という大きな記録を塗り替え、8連覇の金字塔を100年続くブラックプールの歴史に残したのでした。

取材・文／神元誠・久子　写真／鰐部春雄　協力／DSI・LONDON

マイケル・マリトースキー

Michael Malitowski

引退の真意

――お忙しい中、インタビューを受けてくださりありがとうございます。そして、ジョアンナが急遽来られなかったということで……。

マイケル（以下M）　そうなんだよ。私的な理由で来日できなくなったので、僕一人でのインタビューになってしまうけど……。それから、こんな格好で申し訳ない。

――むしろ、ラフな格好が見られて読者も喜ぶと思いますよ。早速です

＊この記事はDSIとダンスファンが共同で行なったダンスファン読者のための独占ロングインタビューです。

引退のことは、5年も前から考えていたんだ。

Michael Malitowski

が、読者の最大の関心はブラックプールでの引退発表にあると思いますので、その辺のことをいろいろお聞きしたいと思っています。いつごろから引退を考えておられたのですか？

M　本当の意味での最終決断は、今回の優勝が決まってからだね。万が一、2位だったりしたら、引退せず再挑戦しようと思っていたからね。

――司会のマーカスは知っていたのですか？

M　彼には2週間前に極秘で〝引退したときのメッセージ〟（P15参照）を渡していて、優勝したときはそれを読んでいいけど、優勝しなかったら読まないでくれって話してあったんだ。もちろん、これはダンスファンの記事に書いていいよ。本当のことだしね（笑）。関係者には試合前に引退表明を知らせないようにしていたんだ。知らせることで、ジャッジやいろんな人に先入観を与えてもよくないし、心地悪さを感じても欲しくなかったからね。だから、マーカスだけにしていたんだ。そして、読むか読まないかは最後の最後で自分たちが決めるからね、と話してあったんだよ。

――マーカスが「8連続優勝を飾り、マイケル・マリトースキー&ジョアンナ・ルーニスは、今ここで引退を決意しました」と話してから、「本当に引退したいのかい？」と続けたのは、それがあったからですね。

M　そう！（笑）8連覇もしたしね。ブライアン&カルメンが引退したときは7連覇していた。あのときの僕たちは2位だったけど、あの記録が破られることなんてないだろうと思っていたよ。だから、僕らの引退は成績からしても絶好のタイミングだった。身体はまだ動くから変な気もするけどね。でも、引退のことは、５年も前から考えていたんだ。２００８年に優勝し、それから世界選手権も優勝したとき、もうこのくらいでいいかなって思い始めていた。欲しい成績は全部残したのだから。そうしたら世界選手権で負けて、インターナショナルで負けてしまったから、こりゃ、もう少しやらなきゃって火が付いて、俄然やる気が沸いてきた（笑）。長く続けようっていうのじゃなくて、一つひとつの競技会に集中しようってね。

――5年前から、次に何をしたいか、すでに目標とか計画がおありだったのですね？

M　そう。この5年間はいろんな計画を立てていたので、楽しかったよ。そのうちの一つ、２０１２年からポーランドのＴＶ局に依頼されて、番組でのジャッジをしているんだ。これはイギリスの人気番組「ストリクトリー・カム・ダンシング」のポーランド版。もう一つ「ダンシング・ウィズ・スターズ」や、他にもダンスに関係した番組やドキュメンタリーにも関わっていて、ＴＶ関係で結構楽しくやっているんだ。もう一つは、3年前、香港にダンスイン（Dansinn Heavenly）というダンススクールを開いたんだ。アンドリュー・シンキンソン、トニー・ドックマン、マーク・ロバートソン、フィリップ・レッドモンド、そして僕の5人でね。教師は35名くらいいるから、その点では香港で一番大きなスタジオで、とても楽しくやっている。7月には賞金総額10万ドル（約１２００万円）のアジア・オープンも主催し、プライム・ショーも開催している。ダンスインのフランチャイズも始まった。教室のオープンの仕方から経営方法、教え方までシステム化する中で、ジョアンナと僕はＩＳＴＤのテキストに沿った基本ステップを踊ってマニュアル化するので忙しいところなんだ。こうした情報は膨大になるし、世界中のどこでも参加できるよう、最先端のクラウドに乗せて提供することにしている。ＤＶＤも紙も必要ないし、レッスン管理から教え方など、何から何までオンラインで管理できるシステムなんだ。だから、いつまでも競技会に固執したくなかった。

――十分踊りましたしね。

M　それもあるけど、新しいことをやりたいしね。まあ、性格的に飽きやすいタイプなんだよ（笑）。競技会に出るのも、その準備をするのも飽きちゃったんだよ。同じことの繰り返しみたいものだからね。こうした計画があったので、現役引退が悲しいとかはなく、とても自然に移行できた。競技会には出ないけど、ジャッジとして参加するしね。ダンスを教えるのは楽しいし、そのカップルに合った振り付けを考えるのも楽しい。ロンドン、ポーランド、アジアと動き回っているって感じだね。

まさかのリカルド・コール！

――実にお忙しいですね。話をブラックプールに戻しますが、決勝発表時、最初のチャチャでリカルド&ユリアがコールされたときは、どんな気持ちでしたか？

独占ロングインタビュー
引退と未来
Retirement and the future

競技会に固執せず、新しいことをやりたい

M　そりゃ、心臓が止まったよ（笑）！　完全に止まったね（笑）。

——見ている側としても、まさかチャチャでとは思っていませんでしたからね。

M　そうなんだよ。チャチャは考えていなかったね。ブラックプールでチャチャで負けたこともなかったからね。だから、心臓が止まったというか、ナイフが心臓に突き刺さった感じだったよ（笑）。

——ジョアンナの反応は？

M　2位発表までに頭の整理をしてるって感じだった。彼女には「気にするな」って言ったけど、リカルドたちにサンバやジャイブで負けてしまったら、引退を取り消さなきゃならない。

——マーカスに「読まないで」ってね。

M　そう。競技会前にプレッシャーを感じていたわけでもないし、自分たちとしては、どの種目も気持ちよく踊れて、楽しんでいたんだ。僕の親父はもっと踊っていて欲しいって言っていたので、負けて引退を延期したら、喜んでいただろうな（笑）。だけど、あのチャチャで負けた瞬間は絶望的な気持ちだった。

——見ている者もみんな驚いたんじゃありませんか？

M　だと思うよ。でも、ジョアンナは冷静に、「負けたらまた来年戦えばいいじゃない」って話していた。幸いサンバで勝って、ルンバ、パソ、ジャイブと残り全部を取れたのでほっとしたけど、ナイフは心臓に突き刺さったまま抜けない、抜けない（笑）。週末まで刺さったままだったよ（大笑）。

——舞台裏でリカルドと話したりはしませんでしたか？

M　話はしたけどね。あのナイフを抜いて、彼の心臓に刺したい気分だったよ（大笑）。試合が終わってから引退を祝して仲間たちが集まったんだけど、チャチャで負けたのを笑っていた友達が作り歌を歌ったのさ。「♪チャチャなんていらない、チャチャなんて嫌いさ♪」って、リカルドが来たときにね！（大笑）

——エエッ（笑）！　で、リカルドの反応は？

M　笑っていたよ（笑）。まじめな話、僕らの優勝を祝ってくれたよ。フェア・プレーヤーだね。別れ際には握手をし、激励してくれてね。彼はプロだよ。だけど友達じゃない（笑）。今まで戦ってきて、友達でいるなんて難しいだろ？　もちろん、敵じゃない。敵じゃないけど友達でもないから、話したりはしない！　できるだけ気にかけないようにしてきたんだ！（大笑）

——そういえば、UKオープンでしたっけ？　リカルドたちがあなたたちの隣にきて挑発的に踊ったことがありましたね。あれって、どんな感じなのですか？

M　あったね。だけど、特に挑戦者の立場だったら、あんなふうに挑戦してみるべきだよね。自分たちは前年の王者だから、それはしないけれど、自分が挑戦する側だったら、やっているかもしれないよ。

——では、ブライアン&カルメンたちに対してはやりました？

M　いや、それはなかった。年齢差があったからね。ブライアンは自分より11歳も上で、彼がプロのファイナイルで踊っていたとき、僕はまだユースで踊っていた。

——14歳の女の子とですね。

M　そう（笑）。だから、世代も違うし僕にとってブライアンは憧れの人だった。一方、リカルドは僕より5歳上だけど同世代。僕は自分の踊りに集中するタイプで、戦う相手は自分自身だけど、それにしても、「♪チャチャなんていらない、チャチャなんて嫌いさ♪」だよ（大笑）。

——お聞きして失礼しました（笑）！

M　全然かまわないよ（笑）。今振り返れば、危ない場面もあって、完璧に面白いじゃないか（笑）。

今年5月のブラックプールで大会史上最多となる8連覇を遂げたマイケル&ジョアンナ。決勝後、マーカス氏により引退メッセージが読み上げられるとジョアンナが涙する場面も（写真＝DSI LONDON）。

ラテンの未来

——今回のブラックプールではプロが他に3組も引退しましたが（注1）、今後のラテンはどうなっていくと思いますか？

M　昨年引退したセルゲイ&メリアを含めて考えると、15年くらいの間、同じ最強のダンサーたちが踊っていたことになるけど、それは避けることのできない、自然な時代の流れだと思う。変化が起きて当然。とはいえ、僕たちがファイナルを踊るようになったとき、「見栄えしないファイナルだ」って言われたものだよ。ブライアンが去り（2007年）、ポール・キリック（2008年）など、たくさんのトップが引退した後の移行期間で、みんな無名みたいなもの。その一方で、突然のチャンスがみんなにやってきたとも言える。いま、僕らやリカルドたちはスーパースターみたいに言われるけど、最初からそうだったわけじゃない。自分たちで頑張って築き上げ、踊りを実証してきたのさ。だから、この先3年くらいは、同じような移行期間に入るかもしれないね。リカルドだってステファノだって引退するかもしれないしね。だからといって、ひどくなるってことじゃなく、違うものに変わっていくってことさ。それは自然なことだろ？　今の若手ダンサーたちは全体的に均一して素晴らしくレベルアップしているし、なかなかいいダンサーもいるから、そのうちに誰かが僕らの記録を破って欲しいね。そうだ！　この記事のタイトルを思いついたよ。

——なんですか？

M　「チャチャなんて嫌いだ！」。どう？（爆笑）

（つづく）

（写真＝ロブ・ロンダ）

Michael Malitowski & Joanna Leunis

2002年10月カップル結成。2003年UKオープンでトップ11に。同年ブラックプールで7位。三大大会の2007年インターナショナルで初優勝後、あらゆる大会で常勝中だが、2011年WDC世界選手権と翌年のインターナショナルではリカルド&ユリアに後塵を拝した。2015年1月UKオープン9連覇、5月ブラックプール8連覇を飾り現役を引退。

（注1）アンドレイ&メリンダ（総合4位）、ユーリ&ヤゴタ（総合5位）、ラシッド&アナ（総合12位）の3組

ブラックプールで読み上げられた
二人からのメッセージ

親愛なるダンスの仲間たちへ

さよならは言わないことにしよう。これは引退でもないし、年金生活に入るわけでもないのだから。

ダンスは詩のようなもの。一つひとつの動きは「言葉」。私たちはその虜になっているのです。もちろん、競技会に出なくなるのは寂しいでしょう。でも、何か新しいこともしたいのです。

今夜ほど、時間が飛び去るのを本当に実感したことはありません。なぜなら、私たちがこのボールルームで初めて優勝したのは15年ほど前ですが、まるで昨日のことのようなのです。今夜は楽しいひとときを過ごしています。ここで最後の競技ができて幸せです。世界でもっとも優雅なこの会場で素晴らしい生演奏のもとで。何年もの長い間、皆さんの愛と応援をいただけて幸せです。本当にありがとうございました。

両親に「ありがとう」を言いましょう。あなたたちの愛と応援がなければ……何が言いたいか分かってくれますね。特にジョゼには感謝しています。あなたは母親以上のことをしてくれました。

私たちの英国チームにも感謝しています。アラン&ヘーゼル、ミック&ローナ、ロレイン、グラハム、ポール、リチャード（注2）、DSI、スーパダンス、ヴェサデザイン——皆さんなくして、何も成し遂げられなかったことでしょう。

心からのもう一つの感謝をオランダのチューリップたち、ピーターとマックス（注3）に捧げましょう。ダンスを始めたころからお世話になっています。

そして最後に、私たちの最大の感謝は紛れもなくルード・バーメイ（注4）に捧げられます。いついかなるときも、私たちはあなたが一緒にいると感じていました。正直、結構それはきつかったですが。親愛なるルード、あなたは私たちのヒーローです。ダンスにおいても、人生においても。

紳士淑女の皆さん、皆さんと共にこの瞬間を過ごせたことを幸せに思います。この高揚感を残したままさよならは言わないことにしましょう。

マイケル&ジョアンナ

（注2）Alan & Hazel Fletcher, Mick & Lorna (Michael Stylianos & Lorna Lee), Lorrain Rohdin, Graham Oswick, Paul Killick, Richard Porter
（注3）Peter Townsend, Maximiliaan Winkelhuis　（注4）Ruud Vermeij

次号後編は「日本インター」「ジョアンナとの話」「ダンスに固執していない話」「出場国を英国に変えた理由」などをテーマにお届け予定です。お楽しみに！